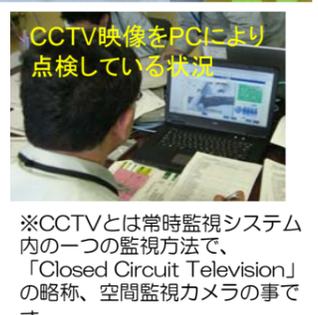


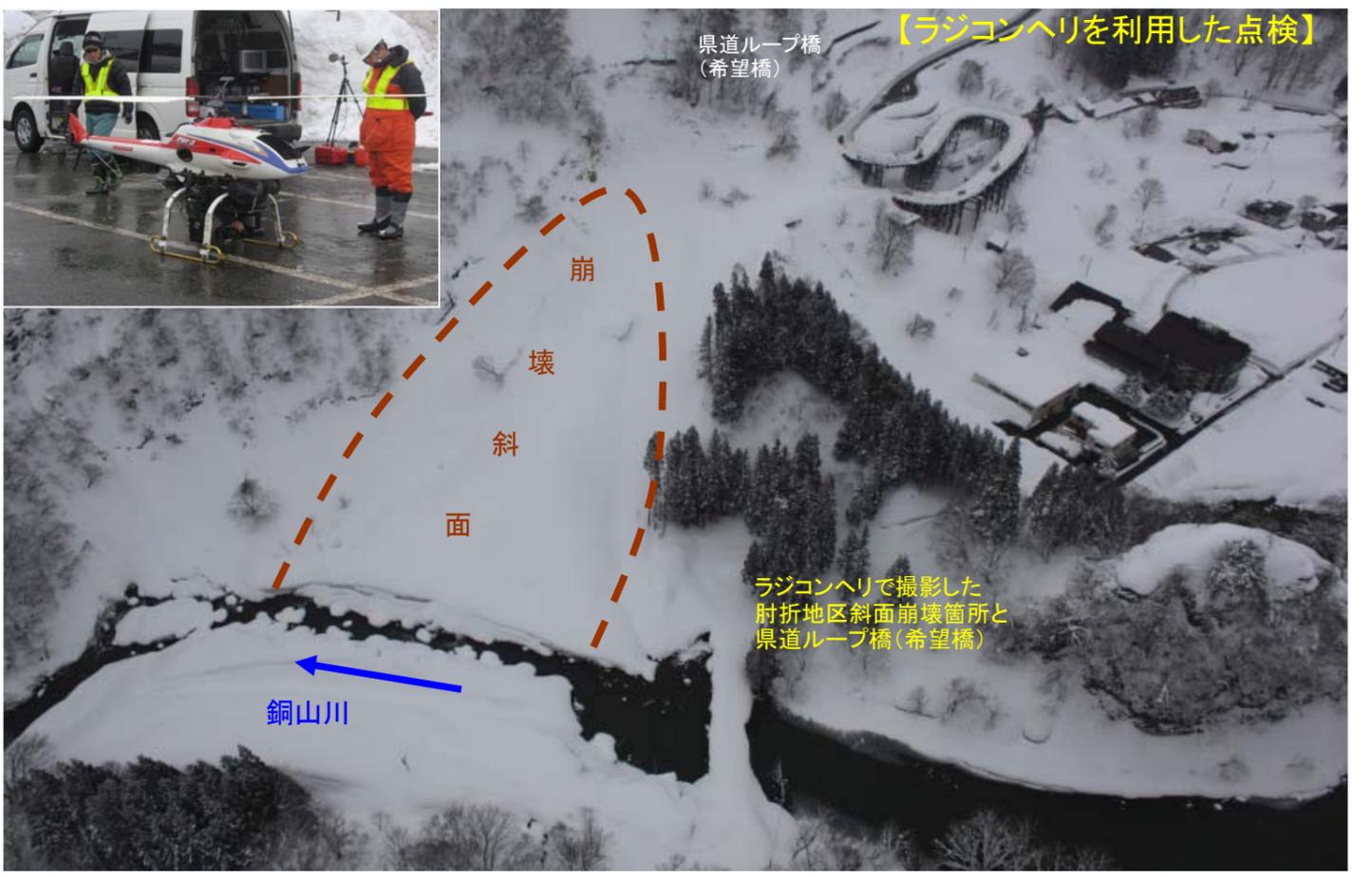
積雪期における震災時の河川・砂防施設点検訓練を実施

新庄河川事務所では、積雪期に発生した東日本大震災を教訓に、昨年度に引き続き積雪の一番多いこの時期に防災訓練を実施しました。昨年実施した災害対応訓練の課題を基に、点検ルート及び点検手段の改善を図る訓練を実施しました。銅山川砂防出張所では、常時監視システム（CCTV、水位計）や関係機関を活用し、まず管内に設置しているCCTVカメラによる点検で現地状況の概略を把握した上、銅山川流域2班と角川流域2班で重要なポイントを中心に、現地踏査が困難な場合は溪流の異常（水の濁り、水位変化）等も参考に巡視・点検を行いました。また新庄河川事務所では、大蔵村肘折においてはラジコンヘリコプターによる点検を実施しました。

【訓練概要】
 日時：平成25年2月14日(木) 9:00～12:00
 想定：発災時刻 9:00 管内震度5強
 参加人数：110名（内職員58名）
 対象区間：【河川】最上川中流、鮭川、真室川等 101km
 【砂防】立谷沢川流域等 6流域



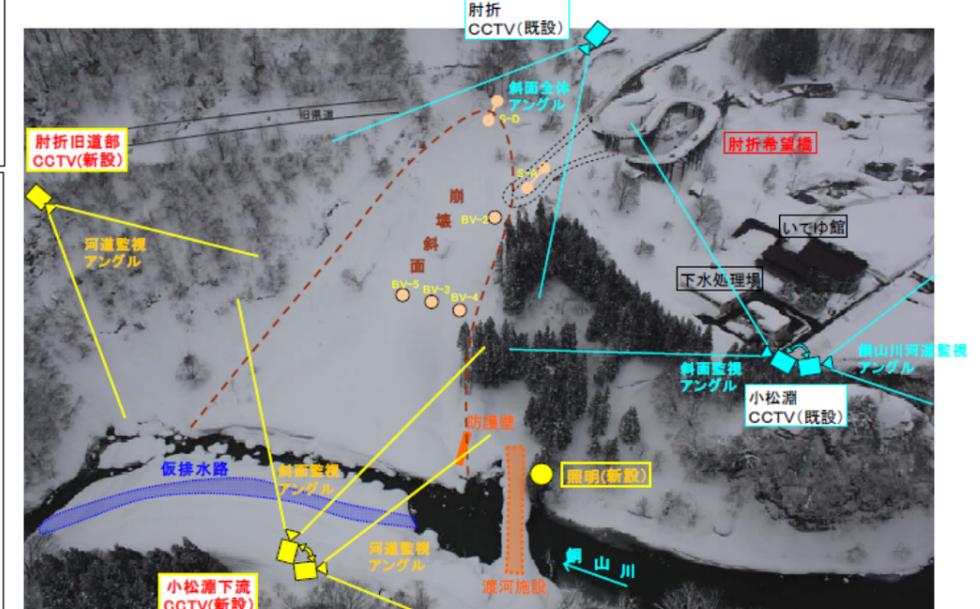
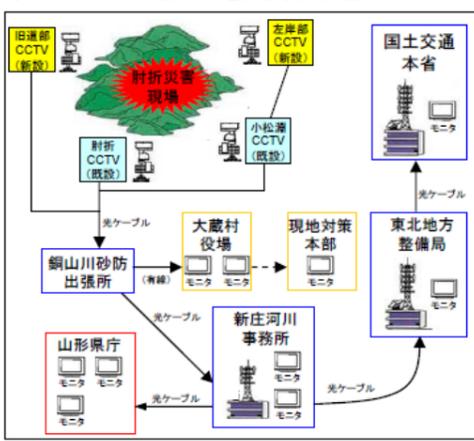
※CCTVとは常時監視システム内の一つの監視方法で、「Closed Circuit Television」の略称、空間監視カメラの事です。



ラジコンヘリで撮影した肘折地区斜面崩壊箇所と県道ループ橋(希望橋)

肘折地区 地すべり斜面・河道監視体制(遠隔操作カメラ関係)の充実

新庄河川事務所では平成24年4月の崩壊以降、既存の遠隔操作の監視カメラ2台の他、カメラ4台を増設して衛星回線を介し24時間、斜面及び河道監視をしていました。積雪期を迎え映像監視体制を充実し、新たなシステムによる映像配信を27日から開始しました。これまではカメラ性能から画像の鮮明度が低く夜間の映像取得は困難で、通信手段がパラボラアンテナによる衛星回線を利用したため、積雪期に通信不能となる懸念がありました。このため、地すべり斜面と河道を監視するうえで、最も重要となる2台の監視カメラを高感度の性能として、光ケーブル通信により遠隔操作可能な監視システムとしました。



第17回現場技術者による「安全施工技術」研究発表会 『肘折災害の初期対応と現場管理について』永井建設(株)が優秀賞に！



▲ 永井現場代理人の発表

平成25年2月25日(月)新庄市民プラザにおいて、新庄河川事務所事故防止対策委員会と事故防止安全対策協議会の主催で開催されました。

新庄河川事務所が今年度発注した工事及び業務委託に携わった技術者が、安全対策や施工技術の向上に係る取り組みにおける創意工夫等を発表し、情報交換・議論して施工技術の向上・技術者の研鑽を図るものです。

研究発表会において、当出張所監督の「銅山川流域横道沢第五砂防堰堤改築工事」を担当する永井建設(株)伊藤現場代理人の論題が優秀賞を受賞しました。



▶ 花岡事務所表彰状を授与
 ▶ 新高校生室の産質業問

▲ 齋藤新庄労働基準監督署長による講評